

木工作 頑張るぞ!!

子どもたちは楽しそうに「ワンちゃんのペン立て」を作っていました。子どもの感性を生かしながら、世界に一つしかない自分だけのペン立てです。

(子ども館冬休み講座)



いつも元気



第二小大正琴クラブ(サンピノ)

はじめよう 協働のまちづくり

大雪に負けるな!

除排雪に地域の力を結集

年始めからの記録的な大雪で、「もう雪にはうんざり」という皆さんも多いと思いますが、こうした厳しい環境の中で、自治会やPTAなど地域単位で除雪に励む取り組みや、高校生による除雪ボランティアなど、今年の冬は意欲的な取り組みが例年にも増して多く見られます。

●除排雪における地域の取り組み

市では自治会などの地域単位で除排雪を行う場合、ダンプトラックか積み込み機械のどちらか一方をオペレーター付きで貸し出す(市がその費用を負担します)制度を設けています。この制度に申し込んだ自治会は、1月20日現在で54件にのぼっており、各自治会の住民の力により、道路や交差点にたまった雪の山はきれいに片付けられています。

また、各学校の始業式前日の1月15日には、歩行に支障のない安全な通学路にしようと各学校のPTAを中心に、児童生徒や地域住民も参加して小学校周辺の通学路の一斉除排雪を行いました。この日の取り組みには、各学校合わせて総勢1,600人にもおよぶ参加者が集い、大きな成果を上げることができました。



学校の前をみんなで除雪

この大雪を機に、改めて地域の持っている力を実感された人も多かったのではないのでしょうか。春はまだ先ですが、地域の力を合わせて、厳しい冬を乗り越えましょう。

表現したものでしょう。三本の碑は稲荷神社をふさぐように建てていますが、歴史を語る違和感のない配置です。(古内)



農林の記憶(五) 「中川原・越前彦蔵」

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

中川原開墾は、野口伊治郎に始まり、藤田成房が受け継ぎ、さらに越前文蔵と彦蔵が活躍しました。文蔵は野口と藤田の頌徳碑の建立発起人となっています。越前家では二代続いて文蔵が中川原開墾に尽くし、別家筋の彦蔵が助けました。

先代の文蔵は、中川原以外でも果樹栽培を始めた人ですが、彦蔵は文蔵を助けて事業を隆盛に導きました。その活動によって社会的に重きをなし、俳句では島田五空や加藤文舟らと行を共にし、青年会活動で柳町遊郭移転運動をするなど幅広い活動をしていました。中川原組合では、昭和二十三年に永小作権が終了し、それぞれの私有地になったことを記念して、彦蔵の頌徳碑を建立しました。その碑面は「越前彦蔵大人之碑」と柳谷市長が墨書し、毛利敬一石工が刻しています。脇には「秋風や身は野ざらしの五十年 北方野人」とあります。「北方」は彦蔵の俳号で、その果樹園を「北方園」とも称しました。

中川原は蔬菜栽培に加えて梨などの果樹も植え、豊かな農園地帯となりました。「五十年」は彦蔵自身の人生を振り返るとともに、中川原開墾がたどった苦難の歴史を感慨を込めて